

## 1. 経緯

- 平成13年 1月26日 新大久保駅転落事故（新大久保駅で酔ってホームから転落した乗客を助けようとした韓国人留学生ら3人が犠牲になった）
- 平成13年 2月19日 「プラットホームからの転落事故に対する安全対策」を  
通達  
 ・非常停止押しボタン又は転落検知マットの設置  
 ・プラットホーム下の待避スペースの確保又はステップの設置
- 平成13年 9月17日 第1回ホーム柵設置促進に関する検討会開催  
（検討会を計6回、ワーキンググループを計6回開催）
- 平成15年10月23日 第6回ホーム柵設置促進に関する検討会開催

## 2. ホームからの転落事故に対する安全対策の整備状況について

平成13年2月19日の「プラットホームからの転落事故に対する安全対策」の通達により、整備対象となる、列車速度が高く、かつ、運転本数の多いプラットホームを有する2,077駅の整備状況は、以下のとおりである。

### （1）通報に対する対策（非常停止押しボタン又は転落検知マットの設置）

対象駅数	12年度末	13年度末	14年度末
2,077	489 (24%)	785 (38%)	1,129 (54%)

注：カッコ内は、対策対象駅に対する対策完了駅の割合を示す。

### （2）避難に対する対策（待避スペースの確保又はステップの設置）

対象駅数	12年度末	13年度末	14年度末
2,077	1,240 (60%)	1,758 (85%)	1,922 (93%)

注：カッコ内は、対策対象駅に対する対策完了駅の割合を示す。